



SME のディザスタ リカバリ

この付録は、次の項で構成されています。

- [SME テープのディザスタ リカバリ シーケンス \(B-1 ページ\)](#)
- [SME ディスクのディザスタ リカバリ シーケンス \(B-2 ページ\)](#)

SME テープのディザスタ リカバリ シーケンス



注意

SME クラスタがオンライン/アクティブ状態に回復できない場合にのみ、この手順を使用します。新しい SME クラスタを作成し、既存のキーをその新しい SME クラスタにインポートする必要があります。

SME テープを回復するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** SME クラスタの ASCII 設定がスイッチ上に存在している場合は、変更を実行する前に、`save the show SME tech support` コマンドおよび `show running config` コマンドをスイッチから削除する必要があります。これらのファイルは新しい SME クラスタを設定するときに役立ちます。
- ステップ 2** 主要な操作 (`admin`, `sme-kmc-admin`, `network-operator`) を実行できる資格情報でキー マネージャ (DCNM Web クライアント) にログインします。
- ステップ 3** 元のクラスタからすべてのボリューム グループをエクスポートします。最新のエクスポートされたバックアップがあれば、この手順は省略できます。古い SME クラスタのマスター キーはこの手順を実行する必要があります。クラスタのセキュリティ モードが「Basic」である場合、マスター キー ファイルが必要です。クラスタのセキュリティ モードが「Standard」または「Advanced」である場合、マスター キーを再構成するには、必要な数のスマート カードを備える必要があります。
- テープ グループを表示し、各ボリューム グループを選択して、[Export] をクリックします。Web クライアントによりオフライン エクスポートが手引きされ、各エクスポートのマスター キーの入力が求められます。
 - キーはパスワードで保護されたファイルにエクスポートされます。
 - 複数のテープ グループが存在する場合、この手順は、すべてのボリューム グループを含む、各テープ グループに対して実行する必要があります。エクスポートがどのテープ グループに属しているかがわかるように、ファイルには明確なラベルを付ける必要があります。
- ステップ 4** DCNM の UI を使用して、同じクラスタ設定で新しい名前を持つ新しいクラスタを作成します。

- ステップ 5 それぞれの古いテープ グループに対応する新しいテープ グループを作成します。
- 元のクラスタから各ボリューム グループに対応する新しいボリューム グループを作成します。
 - テープ デバイスを追加します。
- ステップ 6 既存のテープへの書き込みを引き続き行いたい場合は、FMS conf ディレクトリ内の **smeserver.properties** を変更します。この手順を省略すると、テープは読み取り専用になります。
- smeserver.properties** を編集し、**sme.retain.imported.key.state=true** を追加します。
 - DCNM サーバを再起動します。
 - FMS の再起動を待機し、再度ログインします。
- ステップ 7 手順 3 のボリューム グループを、新しいクラスタの各テープ グループ ボリューム グループにインポートします。
- ステップ 8 手順 7 を省略しなかった場合は、次の手順を実行します。
- smeserver.properties** を編集し、**sme.retain.imported.key.state=true** を削除します。
 - Fabric Manager Server を再起動します。
 - FMS の再起動を待機し、再度ログインします。
- これで新しい SME クラスタは、KMC への安定した接続でオンラインになります。古い SME クラスタからのキーは、新しい SME クラスタにインポートされました。バックアップ操作を再開できます。

SME ディスクのディザスタリカバリ シーケンス

SME ディスクを回復するには、次の手順を実行します。

- ステップ 9 SME クラスタの ASCII 設定がスイッチ上に存在している場合は、変更を実行する前に、**save the show sme tech support** コマンドおよび **show running config** コマンドをスイッチから削除する必要があります。これらのファイルは新しい SME クラスタを設定するときに役立ちます。
- ステップ 10 主要な操作 (**admin**、**sme-kmc-admin**、**network-operator**) を実行できる資格情報でキー マネージャ (DCNM Web クライアント) にログインします。
- ステップ 11 元のクラスタからすべてディスク キーをエクスポートします。最新のエクスポートされたバックアップがあれば、この手順は省略できます。古い SME クラスタのマスター キーはこの手順を実行する必要があります。クラスタのセキュリティ モードが「Basic」である場合、マスター キーファイルが必要です。クラスタのセキュリティ モードが「Standard」または「Advanced」である場合、マスター キーを再構成するには、必要な数のスマート カードを備える必要があります。
- ディスク グループを表示し、すべてのディスクを選択し、[Export] をクリックします。Web クライアントによりオフラインエクスポートが手引きされ、各エクスポートのマスター キーの入力が求められます。
 - キーは、パスワードで保護されたファイルにエクスポートされます。
 - 複数のディスク グループが存在する場合、この手順は、各ディスク グループに対して実行する必要があります。エクスポートがどのディスク グループに属しているかがわかるように、ファイルには明確なラベルを付ける必要があります。
- ステップ 12 DCNM の GUI を使用して、同じクラスタ設定で新しい名前を持つ新しいクラスタを作成します。

- ステップ 13 それぞれの古いディスク グループに対応する新しいディスク グループを作成します。
- 元のクラスタから各ディスク グループに対応する新しいディスク グループを作成します。
- ステップ 14 既存のディスクへの書き込みを引き続き行いたい場合は、FMS conf ディレクトリ内の **smeserver.properties** を変更します。この手順を省略すると、既存のディスクは読み取り専用になります。
- a. **smeserver.properties** を編集し、**smeserver.imported.key.state=true** を追加します。
 - b. Fabric Manager Server を再起動します。
 - c. FMS の再起動を待機し、再度ログインします。
- ステップ 15 手順 3 のキーを、各ディスク グループの新しいクラスタにインポートします。必要に応じて、各ディスク名を一致させます。
- ステップ 16 手順 7 を省略しなかった場合は、次の手順を実行します。
- a. **smeserver.properties** を編集し、**smeserver.imported.key.state=true** を削除します。
 - b. Fabric Manager Server を再起動します。
 - c. FMS の再起動を待機し、再度ログインします。

これで新しい SME クラスタは、KMC への安定した接続でオンラインになります。古い SME クラスタからのキーは、新しい SME クラスタにインポートされました。バックアップ操作を再開できます。
